

2025年は終戦80年にあたります。80年前、風船爆弾作戦を終えた登戸研究所は本土決戦に備えるため長野県を中心とした地域に分散・疎開をします。

今回の企画展では、(1)本土決戦体制下の登戸研究所の活動を解明し、研究所のどのようなセクションが本土決戦のために選ばれて移転したのか、(2)移転後にどこで、どのような兵器・資材の開発を重点的に進めたのかを明らかにします。そして、(3)大本営陸軍部が作成した戦闘マニュアルである「国民抗戦必携」を基に、日本陸軍が構想していた老若男女を問わず国民義勇戦隊に編成してゲリラ戦を展開していくこうとする本土決戦計画も紹介します。また、(4)終戦時に出された命令「特殊研究処理要領」によって、何よりも先に登戸研究所の存在が消されようとしたことも明らかにしていきます。

登戸研究所を通して80年前の本土決戦(準備)というものの実態に触れていただきたいと思います。



展示資料紹介



1 「大月日誌」(当館所蔵)

登戸研究所で庶務などを担当していた大月大尉の1945年1月1日～8月3日の日誌。登戸研究所の各地への疎開についてなど、重要な記録が残されている。

2 松代大本営象山地下壕 (2013年当館撮影)

日本軍は米軍の日本本土上陸に備え、国家の中核機能を長野県松代に移転させるため地下壕を建設していた。

「国民抗戦必携起案資料」(複製、原本:防衛省防衛研究所所蔵)

3 「国民抗戦必携」より表紙および白兵戦の行い方

1945年4月、大本営陸軍部発行。米軍の日本本土上陸に備え、国民向けに肉弾戦や手榴弾を使った攻撃などをわかりやすく解説している。

4 "The Punch Below the Belt: Japanese Ruses, Deception Tactics, and Anti-Personnel Measures" (複製)

1945年8月1日米軍発行。日本軍のゲリラ戦法への対応策がイラスト入りで分かりやすくまとめられているパンフレット。登戸研究所が開発した「缶詰型爆弾」が紹介されている。
(<https://archive.org/details/ThePunchBelowTheBelt/page/n103/mode/2up>)より

「特殊研究処理要領」(複製)

国際法に触れる可能性がある陸軍研究機関に対し、1945年8月15日に証拠隠滅を命じた電報のメモ。一番に風船爆弾関連と登戸研究所について証拠隠滅を命じている。陸軍省軍事課経妻清一作成。(防衛研究所所蔵「新妻清一所蔵文書」複製版より)

5 駒ヶ根市登戸研究所平和資料館 (2025年当館撮影)

登戸研究所の疎開先である長野県駒ヶ根市の旧中沢国民学校校舎に、2024年に開館。疎開先での登戸研究所の活動を紹介している。

リバティアカデミー オープン講座

／企画展講演会

関連イベントのご案内

2025 **12.6** SAT ※開場12:30
13:00-15:30

企画展展示解説

館長 山田龍が参加者と展示を巡りながら企画展の見どころを解説します。

いずれも土曜日

10:00-11:00

開催日:

2026年6月13日、7月11日、

8月22日、9月26日

定員:20名(申し込み先着順)

開催日2日前までに①参加希望日

②参加人数 ③代表者連絡先を添えて下記お問い合わせ先か二次元

コードよりお申し込みください

※メールの場合はタイトルを「企画展

展示解説申込」としてください

※メールでお申し込みの場合、要開

催日以内に当館より申し込み確認

メールを返信します。当館からのメ

ールが届かない場合、迷惑フォル

ダに振り分けられている可能性があります

ので

「nobarito@mics.meiji.ac.jp」

からのメールを受け取れるよう設定を

お願いします。



お問合せ 登戸研究所や風船爆弾関連資料を収集しています。館内常設展示もあわせてご覧ください。

明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571
神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1
明治大学生田キャンパス内
TEL / FAX 044-934-7993
E-mail nobarito@mics.meiji.ac.jp
<https://www.meiji.ac.jp/nobarito>



終了

<https://academy.meiji.jp/ocw/detail/7607>

